

開催日:平成15年12月8日

会議名:平成15年 文教市民委員会

■ 英語教育充実事業

橋本紀子委員

私は教育費の研修指導費についてお尋ねをしたいと思います。補正予算におきまして、小、中の英語教育の委託料が471万円の減額になっておりますけれども、これらの事業について、業者選定がどのようになされているのかお尋ねをしたいと思います。

米津学校教育部参事

英語教育充実事業に関する業者選定の経緯についてお答えいたします。業者の選定に当たりましては、指名競争入札を行うことが適切との判断から、本市財務規則に従い、指名競争入札参加者名簿、いわゆる業者登録を行っているもののうち、他市において英語指導助手派遣事業の実績のある複数社を指名いたしまして、入札を行ったところでございます。結果的には、小、中学校とも同じ業者が落札いたしましたが、契約締結までの間、派遣を予定されている全英語指導助手に対する面接を行いまして、本人の英語力はもとより、人間性や熱意等、総合的に勘案する中で、当該業者と本契約を行ったところでございます。

橋本紀子委員

この土曜日、日曜日におきまして、スクールフェスタ高槻2003という取り組みの一環としまして、英語暗唱、それからスキット、それからスピーチコンテストというのが行われておりました。私も全部ではございませんが、一部見させていただきまして、大変素晴らしい取り組みであるのと同時に、生徒の皆さんの力量とか、あるいはそういったコンテストにチャレンジする、トライする姿勢というところに大変感銘を受けたところでありますけれども、このとりわけ中学校の英語教育充実事業といいますのは、具体的にはこの9月から始まったわけですが、そのスーパーイングリッシュクラスがどのように実施されているか、またその事業を実施する上で、現段階での成果、それから子どもたちの授業での様子、そういったことを少しお聞かせいただきたいと思います。

米津学校教育部参事

本年9月より従来から配置いたしております本市姉妹都市からの5名の英語指導助手に

加えまして、先ほど申し上げました民間業者委託による13名の英語指導助手を18校すべての中学校に配置したところでございます。各中学校に対しましては、配置した英語指導助手を効果的に活用するための学校体制を整備すること、指導計画の作成を行うよう指導をしてまいりました。さらに主として1年生、または2年生のすべてのクラスにおいて、英語指導助手と日本人英語教員のチームティーチングを実施するように指示を行いまして、現在各学校において取り組みを進めているところでございます。この取り組みによりまして、従来ややもすると、文法説明、教科書の訳読に偏りがちでありました授業が、聞くこと、話すことに重点を置いたコミュニケーション能力を高める授業に変わりつつあると、このように認識いたしております。また日常的に英語指導助手が学校に配置されておりますので、このことによりまして、生徒の英語に対する興味関心を高め、英語学習への動機づけ、英語によるコミュニケーションに対する自信を高める効果があるものと、このように期待いたしております。委員、先ほどご紹介していただきましたように、一昨日12月6日の土曜日、本市教育委員会としましては、初めてAETを各学校に入れていただいたその成果をということで、中学生英語暗唱スキットコンテストを行いまして、400名を超える保護者、市民の方にも参加いただき、子どもたち60数名が参加をして発表するという、そういう取り組みを行わせていただきました。以上でございます。

橋本紀子委員

この事業、とりわけ中学校の充実事業を実施するに当たりまして、その事業効果を高めるには、英語科の教員の受け入れる側の意識の改革とか、それから技量の向上が欠かせないと考えますけれども、そういった英語科の教員に対する研修はどのように実施されているか、お聞かせいただきたいと思います。

米津学校教育部参事

中学校の英語教員の研修についてということでございますけれども、文部科学省の補助事業といたしまして、今後6年間にすべての英語教員が10日間程度の研修を受ける、このようになっております。大阪府におきましても、今年度からこの研修が実施されておりました、本市からも13名の英語教員がこれに参加いたしております。また、本市独自に、本市教育センターにおきまして、ことしの夏期休業期間中に英語教員を対象とした5日間の悉皆研修を実施して、新規事業の趣旨の徹底、授業改善に必要な知識理解の向上を図ってまいりました。さらに今年度から教育センターに配置いたしております英語担当の研究主任が各学校を巡回し、授業改善のための指導を行い、各中学校で積極的に授業改善に取り組んでいるところでございます。少し長くなりますが、この効果といたしまして、英語の教員だけではなくて、他の教員にもいい刺激を与え、学校全体の授業の工夫改善、こういったことにつきましても、学校改革の取り組みを進める上でも非常に効果が上がっている

ると、このように認識いたしております。

橋本紀子委員

私やっぱり1つの教科に外部の委託された、いわゆる指導者が入って授業を行うということは、新しい試みであるということに対して非常に興味を持っているわけですが、今後こういった授業を一層充実させていくために、どういうことが必要なのか、あるいはまた、現時点で何が課題となっているのかお聞かせいただきたいと思います。

米津学校教育部参事

課題についてということでございますが、大きく2点あるかと、このように考えております。まず第1点目は、授業の評価をどのように実施するのかということでございます。中学校英語教育充実事業によりまして、高槻の英語教育がどのように変わって、その結果子どもたちの英語能力がどのように向上したのかという、効果測定を行うことについてでございます。教育事業の効果測定、とりわけ子どもたちがどのように成長したのかということにつきましては、なかなか数値的に、また定量的な評価を行うことは難しゅうございます。しかしながら、今後本市教育委員会が実施いたします学力実態調査、これなどを活用いたしまして、効果測定を行っていくようにしてまいりたいと、このように考えております。もう1点でございます。2点目は、英語指導助手や日本人英語教員の資質の確保、資質の向上の問題でございます。特に英語指導助手につきましては、今日多くの自治体で雇用をいたしておりますので、資質の高い英語指導助手を継続的に確保することが最大の懸案と、このように考えております。いずれにいたしましても、当初の目的が果たせますように、今後とも取り組みを進めていく所存でございます。よろしくお願い申し上げます。

橋本紀子委員

最後ですけれども、最初の質問にもかかわってですけれども、例えば民間の英語塾などの指導員になられる方は、日本の教育制度とか、あるいは教育改革と総合的な学習とのかかわりとか、あるいは外部指導者の役割は何かといったような研修を内部で積み上げられておられるというふうにも聞いております。この入札制度という性格上、そういった研修がその入札の価格の中に含まれていくのかどうかというのも今後の問題ではないかなというふうにも思っております。それから、受け入れの側からいいますと、入札をすることによって毎年人が変わっていく、あるいは受け入れる教員が交代していくということで、担当教員や学校の負担にならないよう、十分な研究をお願いしたいということで、ご要望を申し上げて終わらせていただきます。